記者発表資料

令和２年２月２０日
市民文化スポーツ局・文学館事務局

北九州市立文学館の展示リニューアルオープンについて

昨年９月から休館し、展示改修を行ってきた**「北九州市立文学館」が、令和２年３月20日(祝)にリニューアルオープン**します。
北九州を代表する文学者の紹介や、ジャンル別の歴史の紹介のほか、平成以降に活躍する作家も取り上げ、**常設展示が大きく変わります**。
また、世界中で翻訳されている作品の紹介や、多言語表記も加わります。
リニューアルオープンを記念して、式典とイベントを開催します。

１　記念式典

日時　令和２年３月20日（祝）
10：00～10：20　記念式典（北九州市立文学館１階）
10：20～10：30　テープカット
10：30　全館開館（常設展、収蔵品展）
※式典の対象者は、事業関係者及び報道機関です。
※報道機関向け内覧会は、３月19日(木)（11:00～12:00）に行います。

２　記念講演

日時　令和２年３月20日(祝)　11：00～12：00
会場　北九州市立文学館１階
講演者　村田喜代子
テーマ　「書くものは焦土の八幡に
そろっていた」
参加　当日先着100人（参加無料）

※村田喜代子氏プロフィール
1945年、福岡県八幡市（現・北九州市八幡東区）生まれ。中間市在住。
1987年、「鍋の中」で第97回芥川賞受賞。1990年、『白い山』で第29回女流文学賞受賞、1998年、『龍秘御天歌』で第49回芸術選奨文部科学大臣賞受賞、2013年、『ゆうじょこう』で第65回読売文学賞受賞。2019年『飛族』で第55回谷崎潤一郎賞を受賞。著書は、『蕨野行』『蟹女』『この世ランドの眺め』『光線』『八幡炎炎記』『火環 八幡炎炎記 完結編』『エリザベスの友達』など多数。日本芸術院会員。

３　記念冊子配布

文学館をわかりやすく紹介するために子ども向け冊子を作成し、来館者に無料配布します。

４　記念イベント　収蔵品展「北九州を代表する作家(仮称)」

文学館の展示リニューアルを記念して、北九州を代表する文学者にまつわる貴重な収蔵品を一堂に展示。常設展の展示を補う掛け軸や書画をはじめ、文学館が所蔵する自筆資料などを紹介します。

（１）日時　令和２年３月20日(祝)～５月10日（日）

（２）会場　北九州市立文学館１階企画展示室

（３）展示　森鷗外：書簡ほか
杉田久女・橋本多佳子：掛け軸、色紙、短冊、句稿ほか
林芙美子：原稿、書、書簡、絵画ほか
火野葦平：従軍手帳、書画、書簡、原稿ほか
宗左近：原稿、創作ノート、日記、書ほか
自筆資料の他、主な作品の初版本、遺愛品など。

（４）料金　常設展の入場券で観覧できます。

５　展示リニューアルの概要

（１）経緯

文学館は、本市ゆかりの文学者の顕彰と次世代への継承を目的に、平成18年に開館し、文学の普及・啓発に取り組んできました。

開館から10年以上が経過し、常設展示の固定化や若年層の入館が少ないこと、小倉城周辺の外国人観光客の増加などに対応するため、平成29年度に「北九州市立文学館展示リニューアル基本計画」を策定し、展示リニューアルを行いました。

「東アジア文化都市 2020 北九州」のオープニングを迎えるこの春、リニューアルオープンします。

（２）展示リニューアルの主な内容

シンボルウォールがお出迎え

１階エントランスすぐの壁面では、ゆかりの作家の作品を、北九州の風景とコラボした映像で紹介します。

また、２階の常設展エントランスでは、文学作品のイメージ映像を投影し、常設展示の世界へと案内します。

北九州を代表する文学者を紹介

森鷗外、杉田久女・橋本多佳子、林芙美子、火野葦平、宗左近について、貴重な資料やその生涯をグラフィックで紹介します。

また、各文学者の展示のイントロ部分は、それぞれのイメージを小倉織で表現します。

展示解説にはルビを付け、子どもたちや外国の方にもわかりやすく表示します。

北九州の文学のあゆみをジャンル別に展示

明治以前の文学や、明治以降の短歌、俳句と川柳、散文、児童文学、詩のそれぞれの分野別に、現代までの北九州の文学のあゆみを紹介します。

平成以降に活躍している作家を新たに紹介

現在様々な分野で活躍している平野啓一郎さん、リリー・フランキーさん、松尾スズキさん、村田喜代子さんなど 35 人の現代作家を、愛用品などとともに紹介します。

デジタル展示を導入

２階の常設展示室には、タッチパネルによるデジタル展示システムを 11 台設置します。

展示している資料の次ページ以降や裏面など、展示ケースの中では隠れて見えないところも見ることができます。さらに、資料の文字を拡大して見ることもでき、子どもから大人まで楽しく学べます。

今後、展示されていない資料なども追加して紹介します。

世界に広がる北九州の文学作品を紹介

世界各国で読まれている北九州ゆかりの文学作品の中から、39 か国 70 作品（森鷗外の「雁」、平野啓一郎さんの「日蝕」など）を紹介します。また、一部の翻訳本は手に取って閲覧することができます。

さらに、常設展示室では、スマートフォンを使ったガイドシステムにより、日本語、英語、中国語、韓国語の音声で解説を聞くことができます。

四か国語のリーフレットも作成します。

ゆったりとした開放的な空間に生まれ変わる

入口は透明なガラスドアに変更し、明るく入りやすいエントランスに変わります。

また、トイレは、入口の位置を変えて展示壁面を新たに設置し、多目的トイレのスペースを広げるなど全面改修し、アメニティ設備も充実します。

広くなったミュージアムショップやステンドグラス前のスペースなど、新たな文学館は開放的で快適な空間に生まれ変わります。

６　施設概要

（１）住所　　北九州市小倉北区城内 4－1
（２）営業時間　9：30～18：00（入館は 17：30 まで）
（３）休館日　　月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）
（４）入館料　　一般 240 円、中高生 120 円、小学生 60 円
（５）展示室床面積　　640 ㎡
（６）施設特徴　昨年、建築業界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞した世界的に有名な建築家・磯崎新によるユニークな建築物。神秘的なステンドグラスは文学館のシンボルです。
（７）展示数　　約 300 点
（８）整備予算　124,000 千円

【問い合わせ先】
市民文化スポーツ局文学館事務局　田中、勝原
（℡　０９３－５７１－１５０５）